

平成23年度高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務委託

ひがしのどい
東野土居遺跡

記者発表及び現地説明会資料



中世～戦国期の館跡

日時 記者発表 2011年10月21日(金) 10時30分～11時30分
現地説明会 2011年10月23日(日) 13時～15時
場所 香南市野市町東野・土居 東野土居遺跡 発掘調査現場

高知県教育委員会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の目的

今回の発掘調査は、国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している南国安芸道路工事の区間内にかかる東野土居遺跡について、工事で影響を受ける遺跡の発掘調査を事前に実施し、その内容を記録・保存し、地域の歴史像の復元に役立てようとするものです。

2. 調査対象面積

香南市野市町土居・東野(約32,140㎡)

3. 東野土居遺跡

東野土居遺跡は県教育委員会が昭和61年度に実施した遺跡詳細分布調査で確認された遺跡です。南国安芸道路の建設に伴って県教育委員会が平成20・21年度に実施した試掘確認調査、平成21・22年度の県文化財団埋蔵文化財センターの調査では、弥生時代から中・近世の遺跡を確認しました。

4. 調査体制

調査委託者	国土交通省四国地方整備局
調査主体	高知県教育委員会
調査実施機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

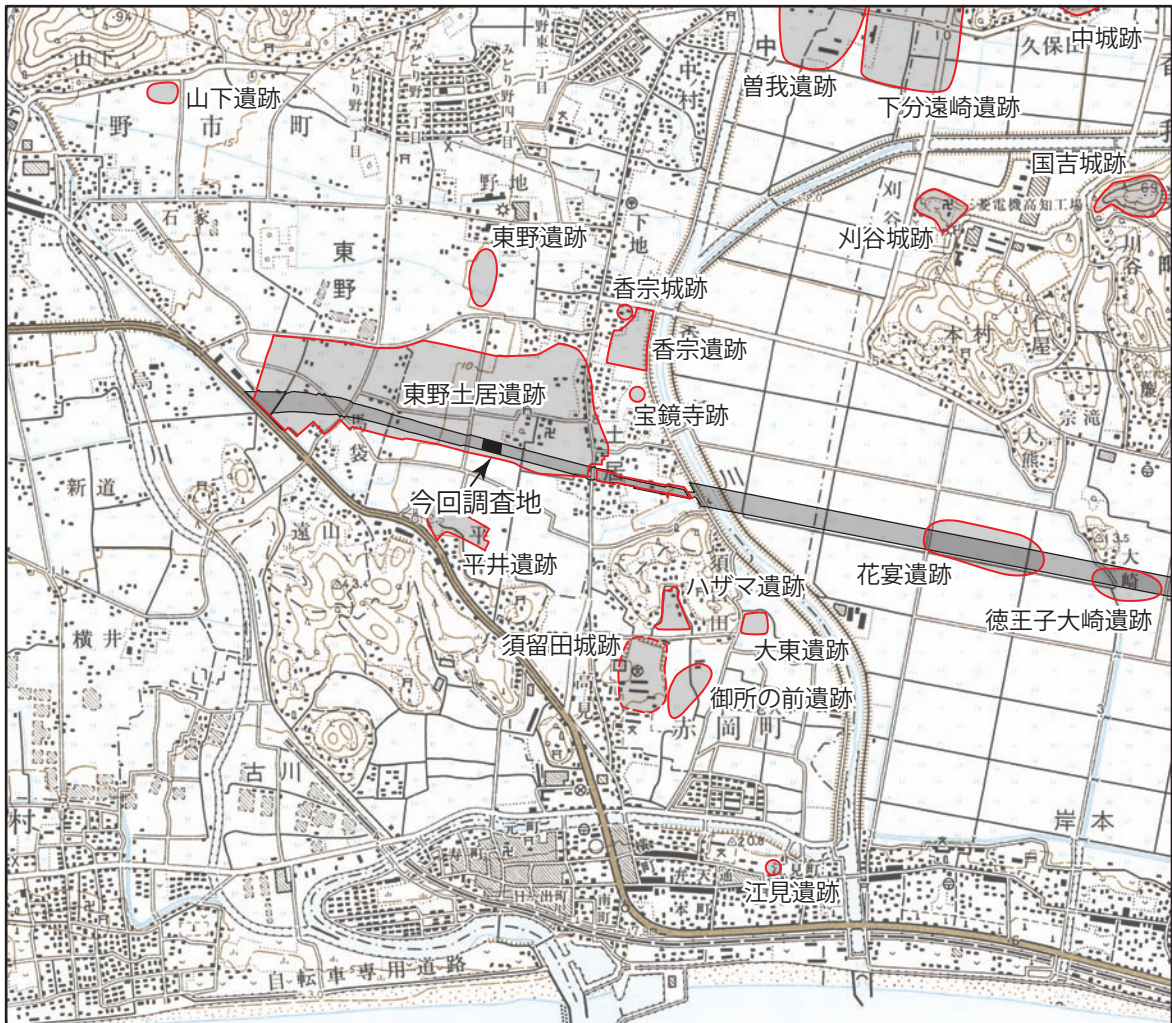


図1 調査区位置図と周辺の遺跡分布(S=1/25,000)

5. 調査期間

平成23年4月25日～平成24年1月31日(予定)

6. 調査結果

(1) 検出遺構

弥生・古墳時代: 竪穴建物、土坑、溝、柱穴など

古代～中・近世: 堀跡、掘立柱建物、井戸、土坑、溝、柱穴など

(2) 出土遺物

弥生時代: 土器(甕、壺、鉢など)、石器など

古墳時代: 土師器(甕、碗、高杯など)、須恵器(杯身、高杯)、鉄製品など

古代～中・近世: 土師器(皿、杯、碗など)、須恵器(皿、杯、甕、硯など)、東播系須恵器、土釜、瓦質土器、土製品、瓦、貿易陶磁器(青磁、白磁)、国内産陶器、貿易陶磁器、鉄滓、鉄製品など

7. 調査成果

・中世～戦国期の館跡

今回の主要な成果としては、室町時代から戦国時代初頭にかけての武士の館^{やかた}を確認しました。

館は幅5m、深さ1.5～2mの長大な堀に囲まれており、堀の区画は一辺が50m(方半町)に達しています。

堀の内側には、1000個を超える柱穴、区画溝、井戸、掘立柱建物、柵列などの多数の遺構が確認されており、館の具体的な姿を知ることができます。屋敷部分には、L字状の区画溝が見られ、現在のところ掘立柱建物と柵列からなる数棟の建物跡を復元できます。加えて、大型井戸(直径6m・深さ2.5m以上)や屋敷墓と考えられる土坑も確認されました。

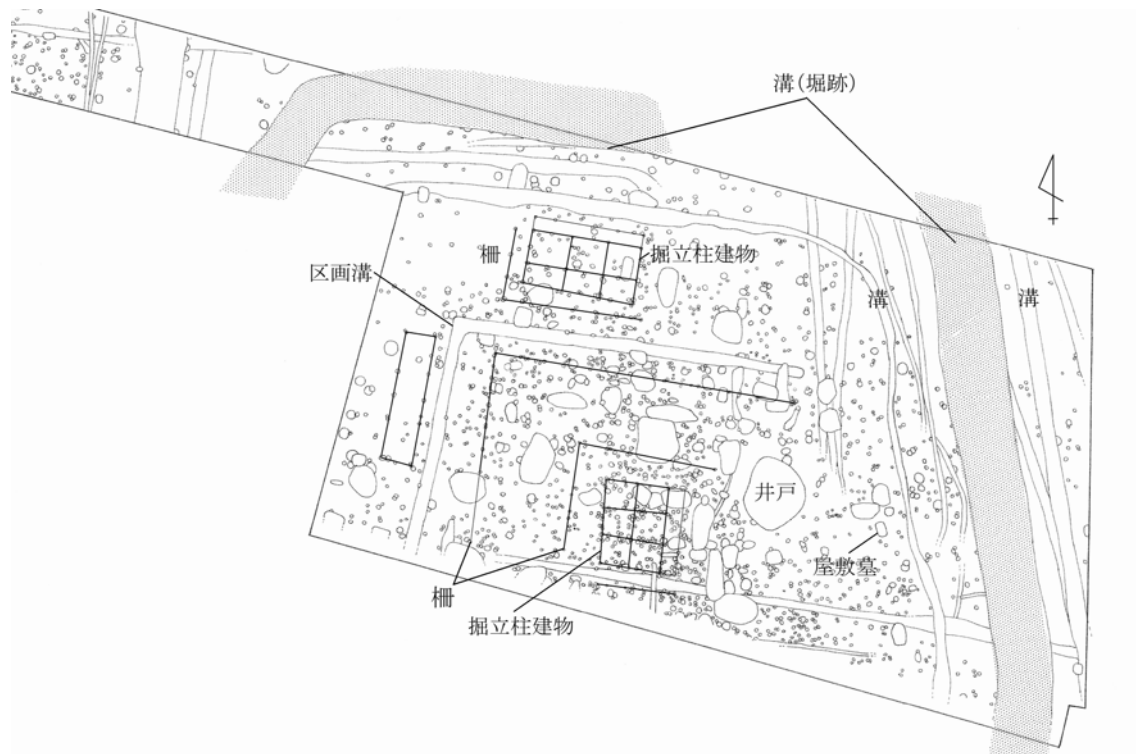


図2 東野土居遺跡(Ⅲ区)、中世～戦国期の館跡 (S=1/600)



堀跡(南から)



井戸跡(南から)



土坑墓の発掘作業(北から)



土器の取上げ作業(南西から)

当該地の地名は、古くから「野々土居」と呼ばれています。今回の調査でも堀の内外に併行して巡る溝を確認しており、土塁を有した堅牢な館であった可能性が示唆されます。

田村遺跡群では、中世から戦国期にかけての細川氏の守護所に推定される田村城館(方二町(一辺200m程度)の区画)を中核として、溝で区画された家臣団の屋敷を数多く確認しています。この度の館は、一辺が50m(方半町)に達する大規模な館であり、今回の発見された館跡が高知平野東部における当該期の状況を知るうえで重要な遺跡であることが明らかとなりました。

調査地の北東部には、中世の香宗我部氏の居城(香宗城跡)に関連する土塁跡、その菩提寺に推定される宝鏡寺跡、関連する礎石が残されています。そうした点からも、今回確認された遺跡が、中世から戦国期に活躍した香宗我部氏と深く関係した館であった可能性は高いと言えます。

隣接する他の調査区からは、中世の屋敷跡が数多く確認されています。昨年度から今年度の調査で、そうした香宗城跡に関わる屋敷群の東西の範囲(東西幅：約500m)をほぼ確認できたことは、一つの大きな成果と言えます。このたび説明を行った館は、そうした屋敷群の中でも最も規模の大きな館として評価できます。今回の成果は、県内における中世から戦国期の歴史の変遷を理解するうえで、貴重な内容を有しています。